

## 第3回 持続可能性有識者委員会

■日時：2022年2月28日（月） 9:30-10:45

■場所：Web 会議システムによるオンライン開催

■出席者（敬称略・五十音順）

＜持続可能性有識者委員会委員＞

委員長：伊藤元重

委員：浅利美鈴、下田吉之、高村ゆかり、竹内純子、朝野和典、松原稔、山田美和、渡邊綱男

### ■議題

- （1）EXPO 2025 グリーンビジョン改定（案）
- （2）持続可能性に配慮した調達コード（案）
- （3）今後のスケジュール
- （4）持続可能性方針

### ■議事概要：

#### （1）EXPO 2025 グリーンビジョン改定（案）

- ・ 協会より、EXPO 2025 グリーンビジョン改定（案）について資料説明の後、意見交換が行われた。
- ・ 委員による発言概要
  - ◇ 万博で調達する製品・サービスのライフサイクルの温室効果ガスや環境負荷、人権・社会的配慮は社会の大きな関心事項となる。グリーンビジョンの基本的考え方としても明示した方がよい。
  - ◇ 持続可能性方針に大目標として掲げた5つの「P」\*のうちのひとつである「People」にはいのち・健康も含まれているため、環境負荷はもちろんのこと、健康に危害を加えないという点をどのように評価しているか確認したい。  
\*5つの「P」…People, Planet, Prosperity, Peace, Partnership
  - ◇ グリーンビジョンの実現に向けた脱炭素や資源循環の取り組みは、自然共生や生物多様性とのシナジーを意識して進めてこそ、本当のグリーンビジョンと言える。
  - ◇ 生物多様性という文脈かもしれないが、海への近さというところで、グリーンビジョンの考え方に大阪・関西万博らしさがあるとよいのではないか。
  - ◇ ごみゼロや食品廃棄ゼロ等の循環型社会に関する評価基準も設けるべきである。

- ◇ 来場者の行動変容を促すナッジ\*の取り組みは重要であるが、ポイント付与だけでなく、幅広い施策を挙げた方がよい。  
\*ナッジ（nudge：そっと後押しする）とは、行動科学の知見（行動インサイト）の活用により、「人々が自分自身にとってより良い選択を自発的に取れるように手助けする手法」。
- ◇ 航空や船舶、自動車などモビリティの燃料は、注目を集める分野であり、次世代モビリティと合わせて検討して欲しい。
- ◇ 会場設計が進む等、色々なことが決まり始めている。実際にグリーンビジョンの内容を会場づくりに落とし込む作業に早く動いて欲しい。

## （２）持続可能性に配慮した調達コード（案）

- ・ 協会より、持続可能性に配慮した調達コード（案）について資料説明の後、意見交換が行われた。
- ・ 委員による発言概要

### 調達コード全般に関して

- ◇ 製品・サービスの調達におけるライフサイクルの環境負荷や社会的配慮については、東京 2020 オリンピック・パラリンピックで調達コードを議論していたときよりも、社会の目線や要求基準が格段に上がっている。最新の動向をしっかりと踏まえ、議論してもらいたい。
- ◇ 大阪・関西万博では何をレガシーとしていくべきか考え、東京 2020 オリンピック・パラリンピック等と比較できるように整理して欲しい。
- ◇ インクルーシブデザインについては、全てに視点を盛り込んで欲しい。
- ◇ 生物多様性や生態系の影響負荷の低減についても調達コードの項目にあるが、求める水準や評価方法、認証制度の位置づけも考える必要がある。
- ◇ プラスチック対策は、それだけで議論が必要なくらい重要だと思う。
- ◇ 後世に残るような枠組みが大事だと思う。調達コードの各基準について、それぞれの認証制度を担保することの妥当性は非常に重要である。認証を含めた枠組み全体を調達コードとしてどう据えていくかという根本的部分も求められてくる。アカウントビリティとレスポンシビリティを調達コードでも位置付けて欲しい。
- ◇ どういう基準で評価していくか、どうやってその基準が実際に守られた製品・サービスであることを確認するかという点が非常に重要である。

### 調達ワーキンググループの運用に関して

- ◇ 調達ワーキンググループに、消費サイドの NGO や市民社会グループからの参加もあるとバランスがいい。ヒアリングやパブリックコメント、コンサルテーションで、消費サイドの代表とのコミュニケーションが大事になってくる。
  - ◇ 調達と消費は繋がっていて切れない。サプライヤー、提供する側だけでなく、享受する側の巻き込みも考慮してワーキンググループを運用して欲しい。
  - ◇ 専門的知見が特に必要となる分野については、サポートする専門性を確保できるよう、専門的知見を持つ人たちの意見を聞きながら議論を進めて欲しい。
  - ◇ 決定して公表するまでのプロセスで、いかに多くの人を巻き込み、理解を得ていくかが重要である。出来上がったものを示すだけでなく、議論のもとで出来上がったというプロセスが重要視される。できればワーキンググループ自体を公開して欲しい。
- ・ 持続可能性に配慮した調達コード（案）については、調達 WG で議論を開始するとともに、次回の委員会でも議題として取り上げることとした。

### **（３）今後のスケジュール**

- ・ 協会より、今後のスケジュールについて資料説明の後、意見交換が行われた。
- ・ 委員による発言概要
  - ◇ 自然共生社会を発信していくことも重要。万博を通じて生物多様性・自然共生に関して何を発信するか、持続可能性計画の策定プロセスにおいても、引き続き検討して欲しい。

### **（４）持続可能性方針**

- ・ 協会より、持続可能性方針について資料説明。
- ・ 第 1 回委員会において委員長一任とされた持続可能性方針について、協会より説明のあったとおりとすることとした。

以上